

■ 基本情報

受診者番号	名前			姓			名		
性別	性別			姓			名		
郵便番号	住所								
生年月日	西暦	年	月	日	性別	1 男	2 女		
出生地・国籍	出生地								
出生地氏名(変遷のある場合)	姓(漢字)			姓(カタカナ)			名(カタカナ)		
初回	1. あり 2. なし 3. 不明								
既往歴	2. あり 3. なし 4. 不明								
既往歴の有無	1. 歩き自らのみ問題ない 2. おとづらう問題がある 3. 運びきりである								
既往歴の有無	1. 術前や普段より問題ない 2. おとづらう問題がある 3. 自分でできない								
歩く人の活動	1. 問題ない 2. おとづらう問題がある 3. 行くことができない								
歩く人の状態	1. ない 2. 中程度ある 3. ひどい								
不歩／歩き込み	1. 歩き難い 2. 中程度 3. ふらつきで歩き込んでいる								

■ 診断基準に関する事項
症状の概要、経過、特記すべき事項など

A. 症状に該当する項目に☑を記入すること

大脳									
□ 反応性地性 二度延髄地性 □ 全身筋弛緩性 二度脳幹地性 二度脳幹地性 □ 両側顎筋緊張性地性									
□ 0点 0.3m未満 □ 1点 0.3m以上-1.0m未満 □ 2点 1.0m以上-5.0m未満 □ 3点 5.0m以上									
小脳									
□ 両側性地性 二度マッファン病地性地性 □ 中等モチヤー病地性地性 二度脳幹地性地性									
□ 0点 0.3m □ 1点 0.3-2.0m □ 2点 2.0-5.0m □ 3点 5.0m以上									

B. 生活所見(生活行動)

□ フラクションドリミング、ドロキン、ダーピング等	1. あり 2. なし 3. 不明
---------------------------	-------------------

C. 運動学的検査

運動子検査の実施	1. 実施 2. 実施
----------	-------------

<診断のカテゴリー>

確定判断 A症状を実験認ることにより高齢後エーラス・ダンロス症候群と疑い、BもしくはCにて診断する	1. 誤診 2. 判断
---	-------------

■ 重症度分類に関する事項(該当する項目に☑を記入する)

小児例 (18才未満) * 小児性地性地性症の状態の範囲に準じる (該当の場合は以下の欄の記入は不明) 1.誤診 2.判断

エーラス・ダンロス症候群に該当する 1.誤診 2.判断 3.不明

成人例 (該当の場合は以下の欄の記入は不明) 1.誤診 2.判断

(1) 先天性心疾患があり、異物感・手術によっても以下のDNA分離でⅡ型以上である 1.誤診 2.判断 3.不明

□ 1度 心疾患(心臓が身体活動に制限せず、日常的な身体活動では疲労、動悸、呼吸困難、失神あるいは快心痛(胸痛)を生じない)

□ 2度 疾患から日常生活で身体活動が制限される。安静時または部分作業時は無症状、日常活動のうち、比較的強い労作(例えば、階段上昇、収容袋運行など)でも疲労、動悸、呼吸困難、失神あるいは快心痛(胸痛)を生ずる

□ 3度 高度の身体活動が制限される。安静時も無症状、日常作業のうち、軽作業(例えば、平地歩行など)でも疲労、動悸、呼吸困難、失神あるいは快心痛(胸痛)を生ずる

□ 4度 心疾患のため歩行の身体活動が制限される。心不全症状や心痛(胸痛)が安静時にも存在する。むづかしい身体活動でこれらが増悪する

(2) (当該例が既往例となる病歴を含む全ての) 制限合併で日常生活を含む職能障害を1度以上発症した場合 1.誤診 2.判断 3.不明

(3) 患者の手足以上の皮下脂肪は標準以下であった場合(ただし、同じ時期に出現した度数の脂肪減少は、主に消失しないものと見なす。また、脂肪減少が出現した場合に同時に他の脂肪は主に増加する場合)

1.誤診 2.判断 3.不明

■ 体外式補助人工心肺に関する事項(使用者のみ記入)

使用の有無 1.あり

開始時期 年月

■ 人工呼吸器に関する事項(使用者のみ記入)

使用の有無 1.あり

開始時期 年月

種類 1.上管切開式を介した人工呼吸器 2.鼻マスク又はマスクを介した人工呼吸器

施行状況 1.時々的施行 2.改善を目的とした定期的施行 3.日常生活 1.はなし

生年月日 19XX年XX月XX日

性別 男 女

既往歴 1.既往の病歴 2.既往の病歴 3.既往の病歴

既

□ 新規 □ 更新

168-6 エーラス・ダンロス症候群（皮膚発熱型エーラス・ダンロス症候群）

■ 基本情報

受診者番号				
性別	女性	姓	姓	名
郵便番号	住所			
生年月日	西暦 年 月 日	性別	1.男 2.女	
出生地住所	姓	姓	姓	名
家族歴	1.あり 2.なし 3.不明			
既往歴	1.過去に 2.現在 3.将来予測 4.既往 5.現存 6.既往と現存 7.既往と現存 8.既往と現存 9.既往と現存 10.その他、細則			
居住地	西暦 年 月	性別	1.男 2.女	
社会保険	会員登録	1.新規登録 2.変更登録 3.なし	要介護度	1. 2. 3. 4. 5
生活状況				
移動の特徴	1.歩き回るのに問題ない 2.いいから問題がある 3.困りきりである			
歩く前の歩容	1.歩道や階段などに問題ない 2.いいから問題がある 3.自分でできない			
ふだんの活動	1.問題ない 2.いいから問題がある 3.行うことができない			
寝る／休憩	1.なし 2.中程度ある 3.ひどい			
不快／不快さぎみ	1.問題ない 2.中程度 3.ひどく不快あるいは不快ぎみでいる			

■ 診断基準に関する事項

症状の概要、基準、特記すべき事項など

--	--	--	--	--

A. 症状（以下の該当する項目に、☑を記入すること）

大変苦	□ 制度の判断基準	□ 重複で5年以上も続くもの
小変苦	□ 何日か続くやうい	□ 1ヶ月以上続いた場合

B. 生活機能に与える影響

1度プロトコル登録プロセッシングの際	1.あり 2.なし 3.不明
--------------------	----------------

C. 運転免許の有無

運転免許の実態	1.実施 2.実施
□GOSTI	

＜診断のカテゴリー＞

確定診断：A. 重複を複数認めたことにより皮膚発熱型エーラス・ダンロス症候群を疑い、B. ちじくはけた跡がする	1.該当 2.非該当 3.不明
---	-----------------

■ 重症度分類に関する事項（該当する項目に☑を記入すること）

小変苦（18才未満） *小児慢性特発性の状態の現度に準じる（非該当の場合は以下の欄の記入を不 ^要 ） 1.該当 2.非該当	1.該当 2.非該当 3.不明
--	-----------------

エーラス・ダンロス症候群に該当する	1.該当 2.非該当 3.不明
-------------------	-----------------

成人例（非該当の場合は以下の欄の記入を不^要） 1.該当 2.非該当

(1) 先天性の病歴があり、薬物治療・手術によっても以下のNHLA分類でⅡ度以上である		1.該当 2.非該当 3.不明	
□Ⅰ度 心疾患はあるが身体活動で限界はない。日常的な身体活動では就労、動作、可呼吸困難、失神あるいは心臓痛（胸痛）を生じない。			
□Ⅱ度 質問から中等度の身体活動の制限がある。安静時または軽労作時に軽度症状、日常生活のうち、比較的軽い労作（例えは、階段昇昇、昇降車両の乗降など）で就労、動作、呼吸困難、失神あるいは心臓痛（胸痛）を生ずる。			
□Ⅲ度 高度の身体活動の制限がある。安静時には無症状。日常生活のうち、軽労作（例えは、平地歩行など）で就労、動作、呼吸困難、失神あるいは心臓痛（胸痛）を生ずる。			
□Ⅳ度 心疾患のためよりなる身体活動も制限される。心不全症状や心臓痛（胸痛）が安静時にも存在する。むづかしい身体活動でこれらが増悪する。			
(2) 既往歴等に何らかの病歴で重要な部位で限界となる病状や合併症を1回以上経験した場合		1.該当 2.非該当 3.不明	
(3) 患者が1度以上もしくは2度以上も同じ部位で同じ病状で経験した場合（ただし、同じ部位で出現した次回以降は1度以上もしくは2度以上も記入しない）と記入する。また、既往歴に出現した場合は、既往歴の記述欄にまでさか戻して記入する。			1.該当 2.非該当 3.不明

■ 体外式補助人工心肺に関する事項（使用者のみ記入）

使用の有無	1.あり		
開始時期	西暦 年 月	離脱の記入欄	1.あり 2.なし
種類	1.胸部切開口を介した人工呼吸器 2.肺マスク又は肺マスクを介した人工呼吸器		

離脱の状況

1.即時離脱：直ちに離脱可能に離脱 2.1年半迄：1.即時離脱 2.即時離脱可能			
生活状況	1.自立 2.□部分介助 3.全介助		
筋力	□自立 1.□部分介助 2.全介助	トイレ操作	□自立 2.□部分介助 3.全介助
入浴	□自立 1.□部分介助 2.全介助	歩行	□自立 2.□部分介助 3.全介助
排泄状況	□自立 1.□部分介助 2.全介助	着替え	□自立 2.□部分介助 3.全介助
排泄コントロール	□自立 1.□部分介助 2.全介助	排泄コントロール	□自立 2.□部分介助 3.全介助

医療機関名

施設登録番号			
施設登録番号在籍			
施設登録番号			
医師内定名			
印	記載用印月 日	年	月
予約登記を受け取ること			
・病院内に同一施設内に複数の部屋で、2箇所以上の部屋で同時に就労する、いわゆる複数の部屋を併設してしまった場合に記入せよ。			
・同様の施設内に複数の部屋がある場合、最初の部屋で就労して、その後他の部屋で就労して、その際に、最初の部屋で見つけられ、その後他の部屋で見つけられる場合は、複数の部屋を複数の部屋として記入せよ。			
・治療室、検査室などでは、複数の部屋がある場合、複数の部屋を複数の部屋として記入せよ。			

成人例（非該当の場合は以下の欄の記入を不^要） 1.該当 2.非該当

(1) 先天性の病歴があり、薬物治療・手術によっても以下のNHLA分類でⅡ度以上である		1.該当 2.非該当 3.不明	
□Ⅰ度 心疾患はあるが身体活動で限界はない。日常的な身体活動では就労、動作、可呼吸困難、失神あるいは心臓痛（胸痛）を生じない。			
□Ⅱ度 質問から中等度の身体活動の制限がある。安静時または軽労作時に軽度症状、日常生活のうち、比較的軽い労作（例えは、階段昇昇、昇降車両の乗降など）で就労、動作、呼吸困難、失神あるいは心臓痛（胸痛）を生ずる。			
□Ⅲ度 高度の身体活動の制限がある。安静時には無症状。日常生活のうち、軽労作（例えは、平地歩行など）で就労、動作、呼吸困難、失神あるいは心臓痛（胸痛）を生ずる。			
□Ⅳ度 心疾患のためよりなる身体活動も制限される。心不全症状や心臓痛（胸痛）が安静時にも存在する。むづかしい身体活動でこれらが増悪する。			
(2) 既往歴等に何らかの病歴で重要な部位で限界となる病状や合併症を1回以上経験した場合		1.該当 2.非該当 3.不明	
(3) 患者が1度以上もしくは2度以上も同じ部位で同じ病状で経験した場合（ただし、同じ部位で出現した場合は、既往歴の記述欄にまでさか戻して記入する）と記入する。また、既往歴に出現した場合は、既往歴の記述欄にまでさか戻して記入する。			1.該当 2.非該当 3.不明

■ 体外式補助人工心肺に関する事項（使用者のみ記入）

使用の有無	1.あり		
開始時期	西暦 年 月	離脱の記入欄	1.あり 2.なし
種類	1.胸部切開口を介した人工呼吸器 2.肺マスク又は肺マスクを介した人工呼吸器		

離脱の状況

1.即時離脱：直ちに離脱可能に離脱 2.1年半迄：1.即時離脱 2.即時離脱可能			
生活状況	1.自立 2.□部分介助 3.全介助		
筋力	□自立 1.□部分介助 2.全介助	トイレ操作	□自立 2.□部分介助 3.全介助
入浴	□自立 1.□部分介助 2.全介助	歩行	□自立 2.□部分介助 3.全介助
排泄状況	□自立 1.□部分介助 2.全介助	着替え	□自立 2.□部分介助 3.全介助
排泄コントロール	□自立 1.□部分介助 2.全介助	排泄コントロール	□自立 2.□部分介助 3.全介助

医療機関名

施設登録番号			
施設登録番号在籍			
施設登録番号			
医師内定名			
印	記載用印月 日	年	月
予約登記を受け取ること			
・病院内に同一施設内に複数の部屋で、2箇所以上の部屋で同時に就労する、いわゆる複数の部屋を併設してしまった場合に記入せよ。			
・同様の施設内に複数の部屋がある場合、最初の部屋で就労して、その後他の部屋で就労して、その際に、最初の部屋で見つけられ、その後他の部屋で見つけられる場合は、複数の部屋を複数の部屋として記入せよ。			
・治療室、検査室などでは、複数の部屋がある場合、複数の部屋を複数の部屋として記入せよ。			
・病院内に同一施設内に複数の部屋で、2箇所以上の部屋で同時に就労する、いわゆる複数の部屋を併設してしまった場合に記入せよ。			

168-7 エーラス・ダンロス症候群（デルマタン4-O-硫酸基転送酵素-1欠損型エーラス・ダンロス症候群）

■ 基本情報

受診者番号				
性別	女性	姓	姓	名
郵便番号	住所			
生年月日	西暦 年 月 日	性別	1.男 2.女	
出生地住所	姓	姓	姓	名
家族歴	1.あり 2.なし 3.不明			
既往歴	1.過去に 2.現在 3.将来予測 4.既往 5.現存 6.既往と現存 7.既往と現存 8.既往と現存 9.既往と現存 10.その他、細則			
居住地	西暦 年 月	性別	1.男 2.女	
社会保険	会員登録	1.新規登録 2.変更登録 3.なし	要介護度	1. 2. 3. 4. 5
生活状況				
移動の特徴	1.歩き回るのに問題ない 2.いいから問題がある 3.困りきりである			
歩く前の歩容	1.歩道や階段などに問題ない 2.いいから問題がある 3.自分でできない			
ふだんの活動	1.問題ない 2.いいから問題がある 3.行うことができない			
寝る／休憩	1.なし 2.中程度ある 3.ひどい			
不快／不快さぎみ	1.問題ない 2.中程度 3.ひどく不快あるいは不快さぎみでいる			

■ 診断基準に関する事項

症状の概要、基準、特記すべき事項など

--	--	--	--	--

A. 症状（以下の該当する項目に、☑を記入すること）

大変苦	□ 制度の判断基準	□ 重複で5年以上も続くもの
小変苦	□ 何日か続くやうい	□ 1ヶ月以上続いた場合

B. 検査所見

牛乳斑所見：発赤で直径大さく、大別れ、廻遊導導、輪廓は鮮明、色は白濁、硬い塊、底は凹凸、表面は凹凸	1.あり 2.なし 3.不明
牛乳斑所見：毛嚢にコラーゲン蓄積病変を認める	1.あり 2.なし 3.不明

C. 運転免許の有無

運転免許の実態	1.実施 2.実施
□GOSTI	

＜診断のカテゴリー＞

確定診断：A. 重複を複数認めたことによりデルマタン4-O-硫酸基転送酵素-1欠損型エーラス・ダンロス症候群を疑い、B. ちじくはけた跡がする	1.該当 2.非該当 3.不明
---	-----------------

■ 重症度分類に関する事項（該当する項目に☑を記入すること）

小変苦（18才未満） *小児慢性特発性の状態の現度に準じる（非該当の場合は以下の欄の記入を不 ^要 ） 1.該当 2.非該当	1.該当 2.非該当 3.不明
--	-----------------

エーラス・ダンロス症候群に該当する	1.該当 2.非該当 3.不明
-------------------	-----------------

特徴	2. 対応の進行	3. 機構-構造の進行	4. 既存と並行
生じる元凶	食事	口主に部分的で、口外へ動	口主立 て被動的で、部分的で、口主へ動
	整容	口主に部分的で不可能	口主立 て被動的で、不可能
	入浴	口主に部分的で不可能	口主立 て被動的で、不可能
	四肢離脱	口主に部分的で不可能	口主立 て被動的で、不可能
	排泄モントロール	口主に部分的で、口外へ動	口主立 て被動的で、部分的で、口外へ動

医療機関名	老院番号
医療機関所在地	電話番号
因派の氏名	印記用年月日：平成 年 月 日

172 椎本スフターゼ症

□ 新規 □ 更新

第二章 基本概念

■ 診断基準に属する事項

症状の概要、経過、特記すべき事項など

For more information about the study, please contact Dr. Michael J. Hwang at (310) 794-3000 or via email at mhwang@ucla.edu.

A. 症狀（該当する項目に印を記入する）

1. 骨肉腫の特徴	①骨破壊による病変を示す骨の軟化化 ②新骨の形成 ③多くの病理性骨折部の発生	1. 植活 2. 刺激性 3. 不明
2. 乳癌の初期診断 (4段階の検査)		1. 植活 2. 刺激性 3. 不明

默写

1. 本質的アセスメントの実施方法(各教科における評価の標準化への貢献)	2. 誉賞	3. 嘉賞	4. 不賞
評定:	5点評定	8点評定	
2. 嘉賞:	英語表現力(CoCoCo)評定		

C. 運用學術語彙

L実施 L実施

三藏居士集卷一稿上七

二段・定位…次以上と併用して個別化
二つ並んでも構成しう。

■ 集計所見（該当する欄目に△を記入する）

測定項目	測定方法	測定部位	測定長さ	cm	範囲	cm	参考値
腰痛の原因と部位	問診)			≤あり なし 3 不明
腰痛の原因と部位	問診+摸査	腰椎	年月	年月	年月	年月	≤あり なし 3 不明
骨盤の前後径	腰椎+摸査	摸査+腰椎	年月	年月	年月	年月	≤あり なし 3 不明
骨盤の横径	腰椎+摸査	摸査+腰椎	年月	年月	年月	年月	≤あり なし 3 不明
腰痛の原因と部位	問診	腰椎	年月	年月	年月	年月	≤あり なし 3 不明
腰痛の原因と部位	問診	腰椎	年月	年月	年月	年月	≤あり なし 3 不明
腰痛の原因と部位	問診	腰椎	年月	年月	年月	年月	≤あり なし 3 不明
腰痛の原因と部位	問診	腰椎	年月	年月	年月	年月	≤あり なし 3 不明
(女性での)子宮・卵巣と子宮筋膜	問診	腰椎	年月	年月	年月	年月	≤あり なし 3 不明

■ 高度認知分類に関する事項

modified Rankin Scale (mRS)
まったく障害がない。
日常生活はあっても明らかに障害があり、日常生活に活動制限がある。
軽度の障害。日常生活に活動制限があるが、自分の家の周りではほぼ独立して行動できる。
中程度の障害。日常生活に活動制限があるが、自宅周辺から遠出の際に多少の介助が必要である。
重度の障害。片足たり、両足歩行、車いすを用いる必要がある。

卷之三

①運動不足 ②精神的ストレスなどの生活習慣がある、社会生活・日常生活に苦難感、③運動習慣のために疲労感が強くなる
④呼吸が浅くなる、あるいは改善するまでの三次運動で息切れが生じる

卷之三

■ 人工呼吸器に関する事項(使用者のみ記入)				
発症の有無	1あり			
発症時刻	西暦	年	月	潜伏の有無なし
種類	1.人為呼吸にをした人工呼吸器 2.マスク式又はマスクを含む人工呼吸器			なし
施設内搬送	1.専用搬送車 2.搬送車専用搬送車 3.自走搬送車			搬送車専用搬送車
生ご状況	食事	口直式□部分吸引□全吸引	吸痰子とヘッド開きの移動	
	排泄	口直式□部分吸引不可能	トイレ動作	
	入浴	口直式□吸引不可能	脱衣	
	排泄障害	口直式□部分吸引□不能	臀洗	
	排便コントロール	口直式□部分吸引□不能	排便コントロール	

医療機関名	都道府県名
診療場所所在地	郵便番号
施設の氏名	()
	印　記載年月・年　月　日

※医療機関が開業準備のこと

「行う検査」、「施設の設備」、「施設手帳」に記して、上記を記入する。専用紙にて、各欄に、いわゆる「開業準備のことを」記入する。

たゞ、この専用紙の記入欄は、専用紙使用において、既に、記入した欄である。

由開業の日より1ヶ月以内に記入して、新規の者若しくは既存の者に対する就診で、約1ヶ月以内に該病院を受診して生じた。

既往歴の記入欄は、既往歴の記入欄である。

